

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170100739		
法人名	社会福祉法人 溪仁会		
事業所名	グループホーム西円山の丘		
所在地	〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3番21号 (電話) 011-640-2200		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 14年 7月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数	27人
職員数	23人	常勤 22人, 非常勤 1人, 常勤換算 19.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての	2~4	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	16,840~26,840 円
敷金	有 (65,000 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 550円
	夕食	550円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	27名	男性 1名	女性 26名
要介護1	3名	要介護2	6名
要介護3	15名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 89歳	最低 79歳	最高 102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人溪仁会 西円山病院 医療法人溪仁会 西円山病院歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設して7年を経過している。設置法人の病院や福祉施設が連絡通路で繋がっており、それぞれに連携が取られている。管理者や職員は質の高いサービスを提供するため家族にアンケートを実施し、それを実践に活かす取り組みも行っている。管理者と職員間のコミュニケーションも良く、自由に意見交換できる職場となっている。当事業所は高台に立地しており、地域との関わりが難しいが管理者や職員の地道な努力により、地域との関係を作り上げている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、自己評価、外部評価の重要性を認識しており、管理者と職員全員で意見交換をしながら、課題を掲げて改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全体会議及び各階のユニット会議を通じてケアの質の向上に取り組み、利用者の日々の生活に反映している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、事業所の取り組み状況や自己評価、外部評価の内容を報告している。また、AED研修、認知症の勉強会、利用者家族が講師となって行う研修の計画立案も行っていて、利用者家族の参加が多い。運営推進会議を通して、町内会との連携も深まっている。さらに、会議録はファイル化している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者や職員は、家族の事業所来訪時、気軽に意見、要望、苦情を話せるような雰囲気づくりに配慮している。事業所が発行する便りに家族の意見、要望を掲載したり、家族等にアンケートを取り、その結果をデータ分析し、事業所の運営に反映させる仕組みを作っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会からウエス等の寄付があったり、町内会の提案で近隣の通路のライトアップの計画を行っている。定期的にボランティアが来所し、書道や食事作り、会話等の活動を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念及び事業所独自の理念を掲げている。また、各階のユニットには事業所独自の理念を掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、理念の実践にあたり、利用者に寄り合い、利用者の動作、気持ちに沿うサービスを実践することを共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会からウエス等の寄付があったり、町内会の提案で近隣の通路のライトアップの計画を行っている。さらに、定期的にボランティアが来所し、書道や食事作り、会話等の活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議及び各階のユニット会議を通じてケアの質の向上に取り組み、利用者の日々の生活に反映している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、事業所の取り組み状況や、自己評価、外部評価の内容を報告している。また、AED研修、認知症の勉強会、利用者家族が講師となつて行う研修の計画立案も行っており、利用者家族の参加が多い。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者とは介護保険に関する相談や、書類上の確認などで連携を取っている。生活保護の関係等で担当者が事業所を訪問することもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の事業所来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について、個々に詳しく伝えるよう努力している。遠方で来所が困難な家族に対しては、電話連絡を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に事業所が発行する便りには、家族の意見、要望を掲載したり、家族等にアンケートを取り、その結果をデータ分析し、事業所の運営に反映させる仕組みを作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者と職員の馴染みの関係を大切にし、職員の異動や離職を最小限に抑えるよう努力している。また、リーダー職員は新人職員をフォローし、利用者へのダメージを防いでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、内外研修の年間計画を作成し、全職員が参加できる体制に努めている。今年度も数回の法人合同研修と毎月行う内部研修では、毎回、介護記録の書き方等の課題をあげ、研鑽に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市、中央区の管理者会議研修に参加している。また、別法人事業所施設での相互訪問で交流を行い、参加結果を全体会議にて発表し、サービスの向上に励んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する前には、本人や家族が事業所を見学して、よく話し合っ、安心して納得のいく利用開始となるよう配慮している。また、状況に応じて、家庭訪問も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に寄り沿うことを大切にし、一人ひとりの希望に沿った対応を心がけている。利用者の話から、人生観を聞き、学ぶことも多く、利用者職員が共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりとの関わりの中で、言葉や表情、今までの習慣などから、その人の思いや意向を汲み取り、利用者本位の対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員による利用者の居室担当制を導入し、利用者や家族の要望、日々の生活の中での気づき、状態の変化などを細かく把握している。自分が利用者だったらどうであるか、という視点を職員は常に持って、介護計画の作成に当たっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化が生じた場合には、その都度フロア会議で検討し、プランの追加、変更や削除を行っている。3ヶ月毎のモニタリングでは、本人と家族の意向を反映した見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し、医療連携体制を実施している。また、同一法人内の作業療法士が事業所に来所し、支援メニューを考えたり、嚥下力低下を来しやすい利用者には、言語療法士から嚥下力強化へのアドバイスがあり、各事業所との連携をとりながら柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では、本人と家族が希望するかかりつけ医がある場合は、受診を支援する体制にある。連携医療機関とは24時間体制で対応が可能となっていて、家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時には、重度化や終末期に向けた指針を示し、できるだけ早い段階から、本人や家族の意向を最優先に考えた対応を話し合い、方針を共有化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員にはコンプライアンスマニュアルを配り、プライバシーの確保を徹底している。職員は、利用者一人ひとりの性格や状況を把握し、誇りやプライバシーに配慮した言葉がけを実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に応じて買物に付き添ったり、入浴の希望にも臨機応変に対応している。利用者の希望に沿うような、言葉がけ、誘い方に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立や、おやつメニュー作りは、法人の管理栄養士のアドバイスのもと職員間で作成し、季節感のあるバランスの良い食事を提供している。配膳の手伝い、刻む、皮むき等の調理への参加、盛り付け、後片付けなど利用者の力量に合わせて職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2回の支援を行っているが、利用者の希望があれば毎日でも行う。なお、夜間の入浴希望には、対応できていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好みや力量に応じて、趣味活動やできることを活かした役割を持つよう支援している。ボランティアの指導で書道をしたり、庭を竹ぼうきで掃いたり、新聞を各階に届けたりする利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の病院の売店に出掛けて買物をしたり、家族とバスでドライブに行ったり、ランチに出かけたりと、外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関のドアは、防犯上オートロックとなっているが、内側からは自由に外に出ることができる。各フロアのエレベーターには乗り降りが職員から死角になるため、チャイムを付けることで出入りが感知できて、外出したい利用者への支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中・夜間を想定し、近隣する法人内施設と連携して、利用者とともに防災訓練を行っている。運営推進会議の委員を通して、地域住民への働きかけも検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士による食事献立の確認を行っている。栄養バランス、水分など摂取量は大まかに把握している。ただし、水分摂取量についてチェック表等に記録し、職員間で情報を共有化するまでには至っていない。	○	今後は、水分摂取量についてチェック表等に記録し、職員が情報を共有できる体制づくりに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、加湿器を2、3ヶ所に設置しているので冬期間の乾燥は少なく、オープンキッチンからは利用者の様子も見えて、落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや椅子、仏壇を持ち込んでいる。洗面台、トイレがそれぞれの居室に設置され、本人が居心地よく安心して過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。